



特設サイトオープン！& 追加プログラム情報解禁

「東京芸術祭 2024」

トランジット・ナウ～寄り道しよう、舞台の世界へ～

7月20日（土）チケット一般発売開始！
7月6日（土）お得な3演目セット券の先行販売開始！

東京芸術祭実行委員会は、2024年9月に開催する「東京芸術祭 2024」について、特設サイトのオープン、プログラムの追加および期間・数量限定の3演目セット券の発売が決定したことを発表します。特設サイトには、今後「東京芸術祭 2024」最新情報をはじめ、全プログラムのスケジュールやチケット情報、見どころなどのコンテンツを掲載していく予定です。

貴媒体でご紹介いただきますようお願い申し上げます。

東京芸術祭 2024 特設サイト <https://tokyo-festival.jp/2024/>

芸術文化の未来をつくる 国際舞台芸術祭「東京芸術祭 2024」

東京芸術祭は、東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指し、毎年秋に豊島区池袋エリアを中心に開催している都市型総合芸術祭です。東京の文化の魅力を分かりやすく見せると同時に、東京における芸術文化の創造力を高めることを目標とし、今年で9年目を迎えます。

中長期的には、社会課題の解決や人づくり、都市づくり、そして、グローバル化への対応を視野に入れ、日本最大級の舞台芸術を中心とした幅広いジャンルの公演事業、アートプロジェクト、また、芸術分野で国際的に活躍する人材の育成プログラムも多数実施し、“芸術文化の未来をつくる芸術祭”を展開しています。

「東京芸術祭 2024」は、多くの人々が劇場を訪れ、対話し、考えを交換することで多様な価値観が生まれていくという、舞台芸術ならではの魅力に改めて注目し、『トランジット・ナウ～寄り道しよう、舞台の世界へ～』をテーマに据え、舞台芸術の祭典に誰もが気軽に参加できるための場を創出します。

事業の2本柱を設定

舞台芸術の上演・配信・地域を巻き込む催しなどからなる「東京芸術祭プログラム」と、人材育成と教育普及の枠組みである「東京芸術祭ファーム」との、2本の柱で構成する構造に事業を再編しました。それぞれが役割を明確にし、有機的につながること、芸術祭のミッションの実現を果たしていきます。



【開催概要】

名称：東京芸術祭 2024

会期：2024年9月15日（日）～29日（日）

会場：東京芸術劇場、GLOBAL RING THEATRE（池袋西口公園野外劇場）

主催：東京芸術祭実行委員会（公益財団法人東京都歴史文化財団（東京芸術劇場・アーツカウンシル東京）、東京都）、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

委託：令和6年度日本博2.0事業（委託型）

協賛：アサヒグループジャパン株式会社

東京芸術劇場
Tokyo Metropolitan Theatre

ARTS COUNCIL TOKYO



東京都

日本博 JAPAN CULTURAL EXPO 2.0

Asahi GROUP

アサヒグループジャパン株式会社

●事業に関するお問い合わせ
東京芸術祭実行委員会事務局 TEL：050-1746-0996（平日10:00～18:00）

●広報に関するお問い合わせ
東京芸術祭実行委員会事務局広報 E-mail：press@tokyo-festival.jp TEL：050-1751-9480（平日10:00～18:00）

▼東京芸術祭 公式サイト
<https://tokyo-festival.jp/>

芸劇オータムセレクション

東京芸術劇場 Presents 木ノ下歌舞伎『三人吉三廓初買』

さんにん ぎちさく るわのはつがい

東京芸術劇場 プレイハウス

2024年9月15日（日）～29日（日） *休演日あり

作：河竹黙阿弥

監修・補綴：木ノ下裕一

演出：杉原邦生 [KUNIO]

出演：田中俊介、須賀健太、矢部昌暉／藤野涼子、小日向星一、深沢萌華

武谷公雄、高山のえみ、山口航太、武居 卓、田中佑弥、緑川史絵

川平慈英／緒川たまき、眞島秀和

スウィング：佐藤俊彦、藤松祥子



撮影：設楽光徳

木ノ下歌舞伎×杉原邦生のタッグの集大成。

疾風怒濤、5時間の一大エンターテインメントがついに大舞台へ！

木ノ下歌舞伎『三人吉三』9年ぶりの再演！2014年初演、2015年の再演（芸劇eyes）では読売演劇大賞2015年上半期作品賞部門のベスト5に選出された代表作が、タイトルを『三人吉三廓初買』に改め、新たな顔ぶれで大舞台に登場する。

数奇な運命に翻弄される若者たち——和尚、お坊、お嬢の“三人吉三”と、現行歌舞伎ではカットされている“商人と花魁の恋”がダイナミックに交錯する鮮烈な群像劇。「当今のシェイクスピア（我が国のシェイクスピア）」（©坪内逍遙）とも評された歌舞伎作者のレジェンド・河竹黙阿弥による最高傑作の、いまや幻となったオリジナル版の全貌を見られるのはこのキノカブ版のみ。幕末の動乱期に執筆され、今もなお愛されつづける物語が、同じく変化と激動の現代（いま）を撃つ。これぞ、木ノ下歌舞伎による『三人吉三』の決定版！

チケット発売日：7月20日（土）10:00（各プレイガイドにて先行販売あり）

料金：全席指定・税込 一般 S席 9,500円 A席 8,000円 サイドシート 5,500円 吉三割 25,500円（一般S席同日3名）

早割 S席 8,500円 A席 7,000円（9月15日（日）、16日（月・祝）公演限定）

スウィング俳優出演回 S席 8,500円 A席 7,000円（9月26日（木）公演限定）

65歳以上（S席）9,000円／29歳以下（A席）7,500円／高校生以下 1,000円／幕見席 2,500円

上演言語：日本語

アクセシビリティ：聞こえない・聞こえづらいお客様のための日本語ポータブル字幕機（日時限定・要予約・日本語のみ）

見えない・見えづらいお客様のための音声ガイド（日時限定・要予約・日本語のみ）

全日程で定価より障害者10%割引（他割引との併用不可）、車椅子スペース、ヘアリングループ（磁気

ループ）作動、託児サービス（詳細は、東京芸術祭 2024特設サイトをご確認ください）

英語ポータブル字幕機（日時限定・要予約）

木ノ下歌舞伎

歴史的な文脈を踏まえつつ、現代における歌舞伎演目上演の可能性を発信する団体。あらゆる視点から歌舞伎にアプローチするため、主宰である木ノ下裕一が指針を示しながら、さまざまな演出家による作品を上演するというスタイルで、京都を中心に2006年より活動を展開している。

木ノ下裕一

木ノ下歌舞伎 主宰。

1985年和歌山市生まれ。2006年、京都造形芸術大学在学中に古典演目上演の補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『三人吉三』『娘道成寺』『義経千本桜一渡海屋・大物浦一』など。

2016年に上演した『勸進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。第38回（令和元年度）京都府文化賞奨励賞受賞。令和2年度京都市芸術新人賞受賞。平成29年度京都市芸術文化特別奨励制度奨励者。

渋谷・コクーン歌舞伎『切られの与三』（2018）の補綴を務めるなど、古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。2024年からまつもと市民芸術館（長野）の芸術監督団長。

<https://kinoshita-kabuki.org/>

杉原邦生

演出家、舞台美術家。KUNIO主宰。

2004年、プロデュース公演カンパニー“KUNIO”を立ち上げる。これまでのKUNIOの作品に『エンジェルス・イン・アメリカ 第1部「至福千年紀が近づく」 第2部「ペレストロイカ」』、『Q1』バージョンを新訳で上演した『ハムレット』、上演時間10時間に及ぶ大作『グリークス』、大学の恩師でもある太田省吾作品を鮮烈に蘇らせた『更地』などがある。近年の主な演出作品は、PARCO PRODUCE 2024『東京輪舞』、KAAT神奈川芸術劇場プロデュース『SHELL』、歌舞伎座『新・水滸伝』、ホリプロ『血の婚礼』、COCOON PRODUCTION 2022 / NINAGAWA MEMORIAL『パンドラの鐘』、さいたまゴールド・シアター最終公演『水の駅』など。第36回京都府文化奨励賞受賞。

<https://kunico.me>

芸術祭オータムセレクション

チェルフィッチュ×藤倉大 with アンサンブル・ノマド
『リビングルームのメタモルフォーシス』

東京芸術劇場 シアターイースト

2024年9月20日（金）～29日（日）*24日（火）休演

作・演出：岡田利規 / 作曲：藤倉大

出演：青柳いづみ、朝倉千恵子、川崎麻里子、椎橋綾那、矢澤 誠、渡邊まな実

演奏：アンサンブル・ノマド



宣伝美術：岡崎真理子（REFLECTA, Inc.）

岡田利規と藤倉大の初コラボレーションによる“音楽劇”

ウィーン芸術週間の委嘱により2023年5月に世界初演を迎えた本作が、ついに日本初演！

これは演劇の上演か、音楽の演奏会か——

フィクショナルな劇空間に音の粒子が混ざり合う“音楽劇”

圧倒的なスケールの世界が観客の目前に現れる

チケット発売日：7月20日（土）10:00

料金：全席自由・税込 一般 6,000円/65歳以上 5,500円/29歳以下 3,500円/高校生以下 1,000円

上演言語：日本語

アクセシビリティ：見えない・見えづらいお客様のための音声ガイド（日時限定・要予約・日本語のみ）

全日程で定価より障害者10%割引（他割引との併用不可）、車椅子スペース、ヒアリングループ（磁気ループ）作動、託児サービス（詳細は、東京芸術祭 2024特設サイトをご確認ください）

英語オープン字幕（全日程）

チェルフィッチュ

岡田利規が全作品の脚本と演出を務める演劇カンパニーとして1997年に設立。2007年クンステン・フェスティバル・デザール（ブリュッセル、ベルギー）にて『三月の5日間』を上演、初めての国外進出を果たす。以降、アジア、欧州、北米、南米あわせて90都市以上で作品を上演し続けている。フェスティバル・ドートンヌ・パリ（フランス）、ウィーン芸術週間（オーストリア）など世界有数のフェスティバル・劇場の委嘱および国際共同製作による創作も多数。

近年は、スクリーンに投影された映像が人の感覚に引き起こす作用によって展示空間を上演空間へと変容させる試み（映像演劇）を舞台映像作家・山田晋平氏とともに始動、2018年に演劇公演/展覧会『渚・臉・カーテン チェルフィッチュの〈映像演劇〉』（熊本市現代美術館）を発表。2021年からは、「ノン・ネイティブ日本語話者との演劇プロジェクト」を始動し、日本語を母語としない俳優を対象としたワークショップを実施、2023年に演劇作品『宇宙船イン・ビトゥーン号の窓』を発表。

岡田利規

演劇作家・小説家・チェルフィッチュ主宰。その手法における言葉と身体の特異な関係が注目され、2005年『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞を受賞、同年7月『クーラー』で「TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2005」一次代を担う振付家の発掘一 最終選考会に出場。2013年に演劇論集『遊行 変形していくための演劇論』（河出書房新社）を刊行。

2016年からはドイツの公立劇場レパートリー作品の作・演出も継続的に務める。2020年『掃除機』（ミュンヘン・カンマーシュピール）および2022年『ドーナ（ッ）ツ』（ハンブルク、タリア劇場）でベルリン演劇祭（ドイツ語圏演劇の年間における“注目すべき10作”）に選出。

タイの現代小説をタイの俳優たちと舞台化した『ブラータナー：憑依のポートレート』で第27回読売演劇大賞・選考委員特別賞を受賞。能のナラティブの構造を用いた『未練の幽霊と怪物 挫波/敦賀』（KAAT神奈川芸術劇場）で第72回読売文学賞・戯曲・シナリオ賞及び第25回鶴屋南北賞受賞。2021年には『夕鶴』（全国共同制作オペラ）で歌劇の演出を手がけた。

小説家としては、2007年に『わたしたちに許された特別な時間の終わり』（新潮社）を刊行。第2回大江健三郎賞受賞。2022年に『ブロッコリーレボリューション』（新潮社）で第35回三島由紀夫賞および第64回熊日文学賞を受賞。

藤倉大

大阪府生まれ。15歳で単身渡英しJ.ベンジャミンらに師事。これまでに数々の作曲賞を受賞、国際的な委嘱を手掛ける。オペラの国際評価も高く、2015年にシャンゼリゼ劇場、ローザンヌ歌劇場、リール歌劇場の共同委嘱による『ソラリス』を世界初演。20年に自身3作目のオペラ『アルマゲドンの夢』が新国立劇場で世界初演された。17年から東京芸術劇場で開催の「ボンクリ・フェス」アーティストック・ディレクターを務める。23年に4度目となる尾高賞を受賞。近年の活動はリモート演奏のための作品発表や、テレビ番組の作曲依頼等多岐に渡る。録音はソニー・ミュージックジャパンインターナショナルやMinabel Recordsから、楽譜はリコルディ・ベルリンから出版。

アンサンブル・ノマド

1997年、ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって結成。「NOMAD（遊牧、漂流）」の名にふさわしく時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプログラムによって独自の世界を表現するアンサンブルとして内外から注目されている。これまでにサントリー音楽財団「第2回佐治敬三賞」、及び「第3回ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞」を受賞。2000年オランダの「ガウデアムス音楽週間」を皮切りに南米やヨーロッパ、韓国や中国など世界各地の現代音楽祭に招かれている。また、近年ではアウトリーチ活動にも積極的に取り組み、各所で訪問コンサートやワークショップを行っている。これまで近藤譲や藤倉大、E.パスケスなどの作品集やオリジナル・アルバム「めぐる-Meguru」など20枚のCDをリリース。2015年発売の「現代中国の作曲家たち」シリーズは、レコード芸術誌の特選盤や朝日新聞の「for your collection」推薦盤に選ばれている。公式ウェブサイト：www.ensemble-nomad.com/

円盤に乗る派『仮想的な失調』

東京芸術劇場 シアターウエスト

2024年9月19日（木）～22日（日・祝）

演出：カゲヤマ气象台*、蜂巢もも（グループ・野原）

脚本：カゲヤマ气象台*

出演：辻村優子、鶴田理紗（白昼夢）、橋本 清（ブルーノプロデュース/y/n）

畠山 峻*（PEOPLE太）、日和下駄*

*＝円盤に乗る派プロジェクトチーム



『仮想的な失調』（2022）撮影：濱田 晋

幽霊、自我の喪失、顔の見えない誰かの欲望……すべてが仮想的な時代における、物語の”失調”

『仮想的な失調』は2022年に初演され、大好評を博した《円盤に乗る派》の代表作。

本作の物語は二つの古典作品を下敷きにしている。ひとつは、自分の名前すら忘れてしまう坊主を主人公とした狂言「名取川」。もうひとつは、源義経の西国落ちを題材にとり、義経の愛妾・静御前とかつての敵・平知盛の怨霊を一人二役で演じる能「船弁慶」。常に複数のSNSを使い分けながら、さまざまなアイデンティティを駆使する現代の生活に向けて、これらの物語の新たな語り直しを試みる。

チケット発売日：7月20日（土）10:00

料金：全席自由・税込 一般 3,000円／29歳以下 2,000円（枚数限定）／18歳以下 無料（枚数限定）

上演言語：日本語

アクセシビリティ：聞こえない・聞こえづらいお客様のための日本語ポータブル字幕機（日時限定・要予約・日本語のみ）

見えない・見えづらいお客様のための音声ガイド（日時限定・要予約・日本語のみ）

全日程で定価より障害者10%割引（他割引との併用不可）、車椅子スペース、ヒアリンググループ（磁気ループ）作動、託児サービス（詳細は、東京芸術祭 2024特設サイトをご確認ください）

英語オープン字幕（全日程）

円盤に乗る派

「複数の作家・表現者が一緒にフラットにいられるための時間、あるべきところにいられるような場所」を作るための演劇プロジェクトとして2018年にスタート。劇場を訪れ、帰っていくまでに体験する全てを「演劇」として捉え、冊子の発行やさまざまなイベントの開催など、上演作品の発表だけにとらわれない活動を展開している。2021年にはコミュニティとしての共同アトリエ「円盤に乗る場」を設立し、表現にまつわる新しいつながりを探究している。

現在のメンバーはカゲヤマ气象台（劇作家・演出家・代表）、日和下駄（俳優）、畠山峻（俳優）、渋谷すず（アドバイザー/ウォッチャー）の4人。

<https://noruha.net/>

コンドルズ・野外パフォーマンス

GLOBAL RING THEATRE 〈池袋西口公園野外劇場〉
2024年9月21日（土）、22日（日・祝）構成・振付・演出：近藤良平
出演：コンドルズ 公募出演者 ほか

©HARU

GLOBAL RING THEATREに集う人、憩う人を巻き込んで、みんなで動き、みんなで鳴らす。
ダンスの波が押し寄せる！みんなで楽しむダンスパフォーマンス。

これまで池袋で地域を巻き込み、さまざまなパフォーマンスを行ってきたコンドルズが、池袋、GLOBAL RING THEATREに久々に登場！会場には休日を楽しんでもらう憩いのスペースとしてテーブルや椅子、キッチンカーが並ぶ。ワクワクするお祭り感の中、コンドルズが繰り広げるギュッと凝縮したエンターテインメントをお楽しみあれ。

観覧無料（予約不要）

アクセシビリティ：見えない・見えづらいお客様のための音声ガイド（日時限定・要予約・日本語のみ）
解説パンフレット（英、中〔簡、繁〕、韓）
車椅子スペース、託児サービス（詳細は、東京芸術祭 2024特設サイトをご確認ください）

近藤良平

コンドルズ主宰／振付家・ダンサー

ペルー、チリ、アルゼンチン育ち。第67回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。第4回朝日舞台芸術賞寺山修司賞受賞。第67回横浜文化賞受賞。

TBS系列『情熱大陸』、NHK総合『地球イチバン』等出演。NHK教育『からだであそぼ』内「こんどうさんちのたいそう」、NHK総合『サラリーマンNEO』内「テレビサラリーマン体操」などで振付出演。NHK連続テレビ小説『てっぺん』オープニング振付も担当。NHK大河ドラマ『いだてん』ダンス指導、「私立恵比寿中学」振付など、映画、TV、PV、CMなど、振付多数。

コンドルズ

世界30ヶ国以上で招聘公演！ニューヨークタイムズ紙絶賛！NHKホールを即日完売＋超満員＋追加公演！近藤良平が主宰する男性のみ学ラン姿でダンス×生演奏×人形劇×パフォーマンス×映像×コントを展開する日本を代表するダンス集団！映画、TV、MV、CMなどに振付、出演多数。近年では、障がい者、高齢者、子どもを対象にした舞台芸術活動にも注力し、共生社会の実現に向けて果敢に挑戦中！

『かぞくアートクラブ』

東京芸術劇場 アトリエウエスト

2024年9月23日（月・休）、29日（日）

ディレクション：YORIKO



家族、ときどき同級生。多世代で笑い、学び合うアート体験

親も子どもと同じチームメイトになって授業を受ける、とっておきの参加型イベント！

東京芸術劇場のアトリエを部室に変身させ、さまざまな分野で活躍する芸術家の方々が先生となり、体や手を動かしたり話し合ったり、共同作業や対話中心のクラブ活動を行う、家族と一緒に笑い、学び、お互いの新しい発見をするための機会！

料金：1家族・1コマ 500 円（材料費・保険料込み）

定員：9組（原則2人1組、小学生兄弟2名まで可能）

対象：小学生（1年生～6年生）とその保護者

持ち物：筆記用具、蓋つきの飲み物、汚れてもいい動きやすい服装

YORIKO

1987年埼玉県生まれ、株式会社ニューモア代表・コミュニケーションデザイナー。

様々な地域で「多世代・多業種の協働」をテーマに住民参加型のデザイン・アートプロジェクトに取り組む。2020年より自社事業として、障害福祉xデザインのチーム「想造楽工」を行う。

託児型ワークショップ 『こどもあそびシアター』

東京芸術劇場 アトリエウエスト

2024年9月20日（金）～28日（土）

ディレクション：牛島光太郎



託児のイメージをすっかり変えます！「預ける」だけじゃない、こどものための特別時間！

子育て中だから、大好きな観劇はガマン・・・しなくてもいい！

子どもたちが「かえりたくない！もっとここであそぶ！」となる、他にはない託児型ワークショップ！

ただ楽しいだけでなく、ここに来る前と後では、子どもたちを少し変えちゃう、そんな不思議な体験が待っている。

料金：500円（2時間・延長可）

対象：4歳～小学生

牛島光太郎

美術家。1978年福岡県生まれ。言葉を用いた作品を制作。日本での活動に加えて、ドイツ、台湾、中国、ニューカレドニアなどで作品を発表。空港や百貨店など公共空間への作品設置の他、里山や市街地でのアートプロジェクトを実施。個展、グループ展、多数。著書に『一枚物語 ちぐはぐな日々のはなし』（アリエスブック刊）。近年の主な活動に、2020年8月に渋谷区宮下公園内ホテル「sequence | MIYASHITA PARK」の客室（全224室）に作品設置、2022年6月に大分市美術館で展覧会。2023年から「子どもの庭」プロジェクトを開始。

東京芸術祭ファームとは

東京芸術祭ファームは、東京芸術祭の人材育成と教育普及の枠組みです。アジアの若いアーティストの交流と成長のためのプラットフォームであったAPAF (Asian Performing Arts Farm) に、フェスティバル/トーキョー (F/T) の研究開発・教育普及事業が合流し2021年にスタートしました。

今年の東京芸術祭ファームは、研究開発を通じた人材育成のための「ラボ」と、教育普及のための「スクール」の2つのカテゴリーでさまざまなプログラムを実施します。「ラボ」では、他者と協働しながら地域や分野を超えた“トランスフィールド”を開拓し、今後ますます流動的になるさまざまなボーダーを自由に行き来して活躍する人材の育成を目指します。「スクール」では、大学生を中心とした若い観客を対象に、レクチャーの受講やトークイベントへの参加など、舞台観劇を通して、考え、交流する機会を提供します。

東京芸術祭ファーム2024 ラボ

◆Asian Performing Arts Camp

アジア各地で活動する舞台芸術の人材が、それぞれのテーマや問題意識を出発点に、レクチャーやワークショップ、文化や国籍を超えたディスカッション、リサーチやフィールドワークを通して共に思考を深め、今後の自身の活動やフィールドを耕すためのアートキャンプ。

プログラムの最後には一般公開のプレゼンテーションを行い、参加者が期間中に得たものをシェアし、観客とも意見を交わすことで、アーティスト自身のステップアップを目指す。

◆制作アシスタント

今後、国際的なフィールドで活動していきたいと考えている日本国内の舞台制作者が、現場での制作補助業務を通して、国際的なプロジェクトのマネジメント経験を積むプログラム（有償）。

参加者は、「Asian Performing Arts Camp」の制作チームに加わり、制作補助業務を行う。業務を通して、国際的なプロジェクトの現場経験が積めるだけでなく、東京芸術祭ファーム ラボが取り組んでいる、多様な参加者が集まるクリエイション現場における安全な創造環境整備についても学ぶことができる。

◆ファーム編集室 アシスタントライター

舞台芸術をつくり、届けるプロセスに「書く」を通じて参加する、実践的プログラム（有償）。「Asian Performing Arts Camp」のプログラムに立ち合い、帯同で得た記録や取材、インタビューなどをもとに、アーカイブブックに掲載する各種記事の執筆を担当する。

◆ファーム ラボ ビジター

「ファーム ラボ ビジター」は、東京芸術祭ファーム ラボのプロセスを一部見学できるプログラム。

このプログラムに登録した方は、アジア各地から参加者が集まる東京芸術祭ファーム ラボのビジターとして、活動の一部を見学することができる。

東京芸術祭ファーム2024 スクール

◆東京芸術祭ファームスクールx有楽町アートアーバニズムYAU「ファーストライン」

有楽町アートアーバニズムYAUと協働し、舞台芸術の周辺のファーストキャリアへ進む学生・若者たちに向けてのプログラムを提供。

アーティストの稽古場見学、多様なゲストによるレクチャー、作品鑑賞後にアーティストやスタッフと対話するトークサロン（公開プログラム）など、舞台芸術に携わるプロフェッショナルとの交流や現場体験を通して、キャリアの第一歩となるきっかけを作る。

東京芸術祭ファーム2024 ラボ 公開レクチャー

東京芸術劇場 ギャラリー2
2024年9月25日（水）

「東京芸術祭ファーム ラボ」の参加者対象に実施するレクチャーを一般公開

料金：無料（要予約）

使用言語：日本語・英語（通訳あり）

※講師、内容等の詳細は後日発表

Asian Performing Arts Camp 最終プレゼンテーション

東京芸術劇場 ギャラリー2
2024年9月28日（土）

登壇者：Asian Performing Arts Camp参加者
モデレーター：Asian Performing Arts Camp ファシリテーター
竹中香子 — 東京、パリ（フランス）
田村かのこ — 東京



Photo: Kazuyuki Matsumoto

2週間にわたるアートキャンプを経た、アジア各地の作り手たちによるプレゼンテーション

Asian Performing Arts Campは、アジア各地で活動する舞台芸術の人材が、それぞれのテーマや問題意識を出発点に、レクチャーやワークショップ、文化や国籍を超えたディスカッション、リサーチやフィールドワークを通して共に思考を深め、今後の自身の活動やフィールドを耕すためのアートキャンプ。本プレゼンテーションでは、参加者が期間中に得たものをシェアし、観客とも意見を交わすことで、アーティスト自身のステップアップを目指す。

料金：無料（要予約）

使用言語：日本語・英語（通訳あり）

竹中香子 — 東京、パリ（フランス）
プロデューサー、俳優、演劇教育

2011年に渡仏し、日本人としてはじめてフランスの国立高等演劇学校の俳優セクションに合格し、2016年、フランス俳優国家資格を取得。パリを拠点に、フランス国公立劇場を中心に多数の舞台に出演。2017年より、日本での活動も再開。俳優活動のほか、フランスの演劇教育や創作現場におけるハラスメント問題に関するレクチャーやワークショップを行う。2021年、フランス演劇教育者国家資格を取得。主な出演作に、市原佐都子作・演出『妖精の問題』『Madama Butterfly』、太田信吾作・演出『最後の芸者たち』。2022年より、アートカンパニー ハイドロブラストのプロデューサーに就任。ドキュメンタリーの手法を用いた企画や作品創作をしている。好きな食べ物はきくらげと豚肉。

<https://hydroblast.asia/>

田村かのこ — 東京
アートトランスレーター

Art Translators Collective代表。日英の通訳・翻訳、コミュニケーションデザインなど幅広く活動。人と文化と言葉の間に立つ媒介者の視点で翻訳の可能性を探りながら、それぞれの場と内容に応じたクリエイティブな対話のあり方を提案している。非常勤講師を務める東京藝術大学大学院美術研究科グローバルアートプラクティス専攻では、アーティストのための英語とコミュニケーションの授業を担当。また札幌国際芸術祭2020では、コミュニケーションデザインディレクターとして、展覧会と観客をつなぐメディアーションを実践した。NPO法人芸術公社所属。カメを2匹とイモリを3匹飼っている。好きな食べ物はスープとトウモロコシ。

<https://art-translators.com/>

協力事業

ネクスト・クリエイション・プログラム 中高生のためのクリエイティブCAMP2024“ゲゲキャン” 『タイトル未定』（8月発表予定）

東京芸術劇場 シアターウエスト
2024年9月28日（土）、29日（日）

出演：公募による12～18歳
演出・振付：藤村港平、碓井菜央
美術・衣装：ひびのこづえ
音楽：小野龍一



公募によって集まった次世代メンバーが生み出すダンス作品！

次世代があつまる創作の場「ゲゲキャン」。舞台芸術のプロと12～18歳（中学1～高校3年生）がダンス作品をつくる共創プログラム。

衣装や音楽も自分たちで手掛け、40日かけてつくりあげた作品を、東京芸術劇場のステージで披露！

※この公演は、東京都と東京都歴史文化財団が取り組む「ネクスト・クリエイション・プログラム」として実施されます。

チケット発売日：8月予定
料金：未定

詳細は <https://gegecamp.jp/event/>

チケット

各公演チケット一般発売：2024年7月20日（土）10:00

▼詳細は特設サイトでご確認ください
<https://tokyo-festival.jp/2024/ticket/>

●3演目セット券 発売決定！

チケットの一般発売に先立ち、3演目セット券を期間・数量限定で発売します。

- 東京芸術劇場 Presents 木ノ下歌舞伎『三人吉三廓初買』
さんじん きち さくろわのはつがい
- チェルフィッチュ×藤倉大 with アンサンブル・ノマド
『リビングルームのメタモルフォーシス』
- 円盤に乗る派『仮想的な失調』

販売期間：2024年7月6日（土）10:00～19日（金）23:59

※先着販売のため売り切れ次第終了

限定60セット（一般×40セット、29歳以下×20セット）

セット券価格（通常の30% OFF）：
一般……………12,950円 通常より5,550円お得
29歳以下… 9,100円 通常より3,900円お得

▼詳細は特設サイトでご確認ください
<https://tokyo-festival.jp/2024/ticket/settickets/>

お問合せ：東京芸術祭実行委員会事務局 TEL：050-1746-0996（平日10:00～18:00）

※内容は予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。
※プログラムおよび詳細は随時発表します。